

現代日本語の依頼表現における「いただく」使用の広がりとその要因

An Expansion of ‘Itadaku’ and Its Main Cause in Japanese Request Expressions

野 呂 健 一

Kenichi Noro

(要 約)

「ご協力いただきますようお願いします」のような表現は、自分側の行為である「～いただく」を聞き手への依頼を表す従属節中で用いているため、規範的には誤用であると考えられるが、実際には広く用いられていることを、検索エンジン及び国会会議録コーパスにより確認した。「いただく」の広がりについて従来は待遇性の面から説明してきたが、本稿では、「いただく」の尊敬語化という観点から考察した。実例を検討すると、「いただく」が持つ恩恵性の薄れているものがあり、その場合、尊敬語への置き換えが可能であることから、恩恵性と待遇性を併せ持つ「いただく」が、恩恵性が希薄化し待遇性のみが残ることによって、尊敬語化したものと考えられる。

(キーワード)

依頼表現、「いただく」、恩恵性、待遇性、尊敬語

1. はじめに

文書や改まった場面で、他人にある行為を依頼する場合、以下のような表現が用いられる¹。相手に対する働きかけの力を持つ遂行動詞「お願いします」を用いて依頼し²、依頼の内容が授受表現で表されたものである。

- (1) ご協力くださいますようお願いします。
- (2) ご協力いただきますようお願いします。

「くださる」は「くれる」の尊敬語であり、行為者は聞き手であるのに対し、「いただく」は「もらう」の謙譲語であり、行為者は話し手である。依頼するのは聞き手の行為であるため、(1)の方が正しい表現であると考えられるが、実際の使用状況を見ると、(2)も(1)と同様、あるいはそれ以上に広く用いられている³。

- (3) 各機関におかれましては、特に下記の内容に留意しつつ、本決定を踏まえた節電に取り組んで
いただきますようお願いします。 (http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1358335.htm)
- (4) つきましては、県民の皆様には、本当に必要とされるものだけを買っていただき、買いだめなどされることのないよう、冷静な行動を取っていただきますようお願いします。

(<http://www.pref.aichi.jp/saigaijoho/pdf/20110318-chijikaiken.pdf>)

(3)は、夏季の電力需給対策について文部科学省が出した通知文であり、(4)は、愛知県知事の記者会見における発言である。このように公用文や公的な場面での発言においても「いただく+お願いします」の形式が使用されている。

この問題については、北澤（2008）が取り上げており、「お送りいただきますようお願いします」が「お送りくださいますようお願いします」とほぼ同等が同等以上に使用されているとしている。また、前者が文法的に誤用でありながらも普及している要因として、後者に比べ高い待遇性を表す表現であるからであると述べている。しかし、後述するように、北澤（2008）の調査方法や考察結果には不十分な点がある。

本稿は、現代日本語の依頼表現のうち、「ご協力いただきますようお願いします」のように「授受表現+お願いします」で表される表現を考察対象とする。「授受表現+お願いします」における、「いただく」使用の広がりを、北澤（2008）の調査結果と比較しながら、コーパスを用いて確認するとともに、実例を検討することによって、「いただく」使用広がりの要因について考察する。

2. 「いただく」使用広がりの実態

2.1 塩田・山下（2013）による意識調査

塩田・山下（2013: 51-52）は、「～くださる」と「～いただいく」が事実上交替可能な場面においては、「～いただいく」が多用されていると述べたうえで、「ご理解 {くださいますよう／いただきますよう／いただけますよう} お願いいたします」の3つの言い方について、意識調査を実施した結果を、以下のとおりまとめている⁴。

- ・「このような言い方をしてもかまわないし、自分でも使うことがある」という全面肯定的回答が最も多かったのは、「いただきますよう」（平均 56%）である。
- ・「場面や状況を問わず、このような使い方はおかしい」という全面的に否定する回答が最も多いのは、「いただけますよう」（平均 24%）である。
- ・「くださいますよう」が比較的高年層に多く選ばれているのに対し、「いただけますよう」は若い年代に多いことから、「くださいますよう」が保守的な形、「いただけますよう」が新興の形であると言える。
- ・「いただきますよう」は、すべての年代でほぼ同じように支持されている。

この結果から、「～いただきますようお願いします」が「～くださいますようお願いします」に比べ優勢であり、また、一般的には、問題のある表現とは考えられていないことが分かる。

2.2 検索エンジン Google による検索結果

「～いただきますようお願いします」等の使用状況を調べるために検索エンジン Google を用いて、「くださる／いただいく／いただける」の普通形と丁寧形に、主な後続表現までを含め完全一致検索した。表1はその結果である⁵。

塩田・山下（2013）の調査結果から予想されるとおり、「お願いします」「お願いいたします」「お願い申し上げます」のいずれに接続する場合も、「いただきますよう」が最も多く使われている。

表1 検索エンジン Googleによる検索結果

	お願いします	お願いいいたします	お願い申し上げます	小計	計
くださるよう	713,000	1,316,000	377,000	2,406,000	36,461,000
くださいますよう	1,286,000	18,240,000	14,529,000	34,055,000	
いただくよう	945,000	2,014,000	707,000	3,666,000	42,708,000
いただきますよう	2,478,000	20,708,000	15,856,000	39,042,000	
いただけるよう	728,000	1,323,000	573,000	2,624,000	34,215,000
いただけますよう	989,000	16,305,000	14,297,000	31,591,000	

2.3 国会会議録による検索結果

北澤（2008）は、「国会会議録」検索システムで、「～くださいますよう」と「～いただきますよう」の用例を収集し、「現代の日本においては、「～くださいますよう…」が「～いただきますよう…」とほぼ同等か同等以上に頻繁に使用されている」（同書：352）と述べている。

北澤（2008）は、単純文字列検索で「くださいますようお願い」「くださるようお願い」「いただきますようお願い」「いただくようお願い」の4形式を漢字表記された場合も含めて検索している（表2）。後半を「お願い」としたのは、「お願いします」「お願いいいたします」「お願い申し上げます」などのバリエーションも収集するためだとしている。

表2 北澤（2008）による「国会会議録」調査結果

	～くださいますよう…	～いただきますよう…	合計
1960年代	1,844 (82.2%)	399 (17.8%)	2,243 (100%)
1970年代	1,417 (65.5%)	747 (34.5%)	2,164 (100%)
1980年代	1,255 (64.4%)	695 (35.6%)	1,950 (100%)
1990年代	1,254 (51.8%)	1,168 (42.8%)	2,422 (100%)
2000～2006年	1,069 (48.8%)	1,121 (51.2%)	2,190 (100%)

ただし、「ご検討くださいますようにお願いいたします」のように、「よう」と「お願い」の間に「に」が挿入される例が一定数確認されるが、北澤（2008）の検索では収集されない。また、北澤（2008）では、「～いただけますよう」の件数を、「～いただきますよう」に含めているが、塩田・山下（2013）が指摘するように新興の形であるため、別個に件数を出すべきであろう。

さらに、後述するように、本稿では「いただく」使用の増加が尊敬語と関係しているのではないかと考えているため、「ご検討なさいますようお願いします」のように、「お願いします」の前に尊敬語が用いられる例についても、収集する必要がある。

以上の点を踏まえ、1955年から10年ごとに、4月1日から5月末日までの2か月間の国会会議録を検索対象とし、「～よう（に）お願い」の前に、どのような表現が用いられるかを調査した。検索語に「ようお願い」「ようにお願い」を指定し、その前に用いられる形式ごとに件数を記録した（表3）。

表3 国会会議録による検索結果

	くださるよう(に)…	くださいますよう(に)…	いたداعよう(に)…	いただきますよう(に)…	いただけるよう(に)…	いただけますよう(に)…	尊敬語+よう(に)…	尊敬語なし+よう(に)…	合計
1955	15 (12.9%)	21 (18.1%)	21 (18.1%)	4 (3.4%)	0	0	25 (21.6%)	30 (25.9%)	116
	36 (31.0%)		25 (21.6%)		0				
1965	32 (16.1%)	58 (29.1%)	38 (19.1%)	11 (5.5%)	0	0	31 (15.6%)	29 (14.6%)	199
	90 (45.2%)		49 (24.6%)		0				
1975	14 (12.8%)	24 (22.0%)	28 (25.7%)	15 (13.8%)	1 (0.9%)	0	15 (13.8%)	12 (11.0%)	109
	38 (34.9%)		43 (39.4%)		1 (0.9%)				
1985	12 (4.6%)	54 (20.6%)	64 (24.4%)	33 (12.6%)	5 (1.9%)	0	44 (16.8%)	50 (19.1%)	262
	66 (25.2%)		97 (37.0%)		5 (1.9%)				
1995	8 (6.2%)	26 (20.2%)	22 (17.1%)	37 (28.7%)	0	0	18 (14.0%)	18 (14.0%)	129
	34 (26.4%)		59 (45.7%)		0				
2005	6 (2.9%)	55 (26.4%)	39 (18.8%)	37 (17.8%)	17 (8.2%)	4 (1.9%)	19 (9.1%)	31 (14.9%)	208
	61 (29.3%)		76 (36.5%)		21 (10.1%)				
2015	3 (1.1%)	27 (10.2%)	71 (26.8%)	60 (22.6%)	18 (6.8%)	10 (3.8%)	32 (12.1%)	44 (16.6%)	265
	30 (11.3%)		131 (49.4%)		28 (10.6%)				

この調査結果からは、以下のようなことが分かる。

- ・1965年までは「くださる」系が、1975年以降は「いたداع」系が優勢である。
- ・「くださる」系では、特に、普通形の使用が急激に減少しているのに対し、「いたداع」系では丁寧形の使用が急激に増加している。
- ・「いただける」系は、2005年以降目立ち、2015年には、「くださる」系に匹敵していることから、塩田・山下（2013）が指摘するように、新興の形であると言える。
- ・「～なさいますようお願いします」のように尊敬語を用いる割合は徐々に減少する傾向にある。

北澤（2008）の指摘のとおり、近年では「～いただきますよう…」が「～なさいますよう…」に代わって用いられているが、注目すべきは、尊敬語の使用件数が減少傾向にあることである。この点については4節以降で検討する。

3. 「～いただきますようお願いします」における構文上の問題点

3.1 誤用であるとの指摘

高島（2002）や萩野（2005）は、「～いただきますようお願いします」は誤った表現であり、正しく

は「～くださいますようお願いします」であると述べている。

3.2 従属節「～よう（に）」と主節述語「お願いする」との関係

「お願いする」という動詞は、寺村（1982）が「命ジル」類としてまとめる「要求スル、要請スル、依頼スル」などの動詞と同様、「X（主体、人）ガY（相手、人）ニ～スル」という文型で用いられる。「何かの事柄をXがYに伝え」「それによってYの行動または反応をひきおこす」（寺村 1982: 136）ことを示す表現である。したがって、(7)において「説明」するのはYの行動である⁶。

- (7) 事故の顛末を説明してくださいますようお願いします。

また、グループ・ジャマシイ（1998: 621-622）は、「お願いします」や「しなさい／してください」などの動詞に続く「よう（に）」を、「聞き手に対する忠告や勧告を表す表現」としている。すなわち、「～よう（に）」で表される行為の主体は聞き手に限られる⁷。

(8) 時間内に終了するようお願いします。 (同書: 621)

(9) 道路にはみ出した樹木の枝や障害物などは、事前に撤去するようお願いします。

(http://www.city.nikko.lg.jp/ijikanri/josetu.html)

4. 「いただく」使用の広がり

「～くださる」と「～いただく」の使い分けについて、最近は「～いただく」の方が好まれる傾向にあるという指摘が、国立国語研究所（1992）をはじめ多くの研究において示されている。例えば、国立国語研究所（1992: 124）は、「～いただく」の方が、「相手の動作を際立たせない表現、つまり相手の行為を「厚意」として受け取り、相手に責任をもたせない自己中心の表現」であり、「丁寧さをより多く感じる者が多いようである」と述べている。

こうした説明に対して、北澤（2008: 357）は、「～くださる」よりも高い敬意を感じつつ「～いただく」を使うにしても、それは单文のレベルで認められていること」であり、「複文の「～いただきますよう…」の使用がそのまま肯定されたわけではない」としている。しかし、3節で述べた構文上の欠陥という問題については、「～ようお願い申し上げます」という依頼文と、「よう」節の中の「～いただく」との構文及び意味上の齟齬を克服しないまま、「～いただく」そのものの待遇性と間接性・婉曲性を抛りどころとして広まったものと考えられる」と述べるにとどまり、なぜ構文上の欠陥をかかえた表現が広まったのかについて明確にされているとは言い難い。

本稿では、「～いただく」の尊敬語化に一つの要因があるのではないかと考えるが、その際、参考となる研究に上原（2007）がある。上原（2007）は、「てもらう」を「受動型でもらう」と「使役型でもらう」に大別した益岡（2001）に基づき、「～いただく」を、(10)のような「受動型ていただく」と(11)のような「使役型ていただく」に分類している。「受動型ていただく」は、相手の行為が話者にとって恩恵的である場合に限り使用でき、尊敬語に置き換えることができるのに対し、「使役型ていただく」は尊敬語だけの形式には置き換えられないと述べている。

(10) (客が故障した携帯電話を修理に出したとき、店員が客に聞く) こちらの携帯電話はどのくらいお使いいただいているか。
(同書: 192)

(11) (グループ旅行の添乗員がツアー客に翌日の行動を指示する) 明日の朝は、8時にロビーに集合していただきます。
(同書: 195)

(12)こちらの携帯電話はどのくらいお使いになつてしまっていますか。
(同書: 194)

(13)*明日の朝は、8時にロビーに集合なさいます。
(同書: 196)

また、「使役型ていただく」のほとんどの例は相手の行為により話者が恩恵を受ける例であるが、(14)のように、必ずしも恩恵的でない場合もあり、「受動型ていただく」が恩恵性のある場合に限られているとの対照的であると述べている。

(14) (スポーツジムで、インストラクターが体操の指示をする) まず両手をまっすぐ上に伸ばしていただいて、それからゆっくりと前におろします。
(同書: 197)

本稿が考察対象とする「～いただきますようお願いします」は、相手に対する依頼があるため、上原（2007）の2分類では、「使役型ていただく」に該当するであろう。上原（2007）の指摘するとおり、多くの例は相手の行為により話者が恩恵を受けるものである。

(15)選挙によって選出される市長、議員等の職にあるものは、公職選挙法により年賀状など、時候のあいさつ状が禁じられています。市民の皆様には、この趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いします。
(BCCWJ『広報こおりやま』2008年12号)

(16)去る10月14日、2014年度都市史学会大会のご案内を送付させていただきました。その際、大会プログラムへのご出席の有無を事務局までお知らせいただきますようお願いしております。
(<http://suth.jp/news/20141103/>)

また、上原（2007）では、「使役型ていただく」は尊敬語だけの形式には置き換えられないとされているが、上に挙げた「～いただきますようお願いします」の場合も、「～いただく」の部分を尊敬語に

置き換えると容認度が下がる。例えば(16)‘は、事務局の担当者が出す文章としてはかなり不自然であろう。

(15)‘ ?市民の皆様には、この趣旨をご理解いただき、{ご協力になりますよう／協力なさいますよう} お願いします。

(16)‘ ?大会プログラムへのご出席の有無を事務局までお知らせになりますようお願いしております。

次の例では、尊敬語に置き換えると、元の文では感じられた恩恵の意味が感じられなくなる。このような場合には、尊敬語への置き換えが可能とは言い難い。

(17) 魅力ある親水環境をつくるため、河川愛護運動に参加していただきますようお願いします。

(BCCWJ『土佐広報』2007年07号)

(17)‘ ?魅力ある親水環境をつくるため、河川愛護運動に参加なさいますようお願いします。

このように、「～いただきますようお願いします」は本来、相手に依頼し、相手がその行為を行うことで、話し手が恩恵を得るような文脈で用いられるのだが、話し手が恩恵を受けていると感じられないような実例が多数観察される。

(18)「自分の健康は自らが守る」という認識と自覚を高めていただき、年に1回の検診は積極的に受けていただきますようお願いします。 (BCCWJ『広報田辺』2008年09号)

(19)利用者の皆さんには、大変ご迷惑をお掛けしますが、ほかの施設を利用していただきますようお願いします。 (BCCWJ『広報いせ』2008年04号)

(20)説明会では、立候補に必要な書類等も配布しますので、立候補あるいは立候補者を推薦しようと考えられている方は、必ずご出席していただきますようお願いします。

(BCCWJ『広報あいこうか』2008年15号)

(21)通行止めに際しては、誘導員を配置するとともに案内看板を設置しますので、係員の指示に従い通行していただきますようお願いします。 (BCCWJ『広報うえだ』2008年18号)

(22)お降りの際にはお手荷物をお確かめいただきますようお願いいたします。

(BCCWJ松崎菊也『松崎菊也のひとり天誅！』毎日新聞社)

上原（2007）は、「使役型でいただく」は尊敬語に置き換えられないと述べているが、恩恵性が希薄化した場合、「～ていただく」の代わりに尊敬語（「お～になる」「～なさる」など）への置き換えが可能となる。

(18)‘ 「自分の健康は自らが守る」という認識と自覚を高めていただき、年に1回の検診は積極的にお受けになりますようお願いします。

(19)‘ 利用者の皆さんには、大変ご迷惑をお掛けしますが、ほかの施設をご利用になりますようお願いします。

(20)‘ 説明会では、立候補に必要な書類等も配布しますので、立候補あるいは立候補者を推薦しようと考えられている方は、必ず出席なさいますようお願いします。

(21)‘ 通行止めに際しては、誘導員を配置するとともに案内看板を設置しますので、係員の指示に

従い通行なさいますようお願いします。

(22) お降りの際にはお手荷物をお確かめになりますようお願いいたします

このように「～いただきますようお願いします」において、「～いただく」の恩恵性が感じられないような事例では、「～いただく」の部分を尊敬語に置き換えることが可能になる。

5. 「いただく」の尊敬語化

前節で挙げた、「～いただく」の恩恵性が希薄化し尊敬語への置き換えが可能となる場合について、本稿では、本来は恩恵性を表す「～いただく」が、尊敬語化していると考える。つまり、「～いただく」の恩恵性が希薄化した結果、尊敬語との区別がなくなったのではないかということである。

ここで、上原（2007）の「受動型ていただく」について確認する。「受動型ていただく」は、相手の行為が話者にとって恩恵的である場合に限り使用でき、尊敬語に置き換えることができるとされているが、「～いただく」の恩恵性が希薄化し、尊敬語と置き換え可能になったという本稿の主旨と矛盾するように感じられるからである。

上原（2007）が尊敬語と置き換え可能とした「受動型ていただく」の例を再度検討してみると、(23)では感じられた恩恵性が、(24)には感じられない。その根拠として、携帯電話の乗り換え時、他社の携帯電話を持ち込んだ客に対して、(24)のように尋ねることはあっても、(23)では容認度が下がるのではないかだろうか。

(23)こちらの携帯電話はどのぐらいお使いいただいていますか。 (=10))

(24)こちらの携帯電話はどのぐらいお使いになついらっしゃいますか。 (=12))

「～いただく」が尊敬語化したと考えることによって、金澤（2007）が取り上げている、「○○（=相手）が、△△していただく」のように、本来二格であるべきところにガ格が現れる現象についても説明可能となる。金澤（2007: 49）は、この表現を、(25)のように図式化し、「本動詞の方は動作主としての主語その関わりだけを担うのに対して、授受表現の方は話者の心情や意識を全面的に担う」と述べ、ガ格による動作主の明示と「ていただく」形との共起がルール違反ではないとしている。

(25) [○○（=相手）が、△△し] ていただく。

しかし、(26)のような「～いただきますようお願いします」の場合、「～いただく」の主体は聞き手と解釈されるため、金澤（2007）の記述では説明できない。尊敬語化した「～いただく」の主体は聞き手であるため、主体を明示する必要がある場合には、ガ格で表示されると考えた方が妥当であろう⁸。

(26)本格運用に向け、市民のみなさんが一丸となって飛騨河合P Aスマート I Cをご利用いただき
ますようお願いします。 (BCCWJ『広報ひだ』2008年10号)

6. まとめ

「お願いします」という依頼の遂行動詞に授受表現が先行する場合、規範的には「くださる」が用いられるべきと考えられるが、実際には「いただく」が広く用いられていることを、検索エンジンと国会会議録により調査した。国会会議録の調査結果からは、特に「～いただきますようお願いします」と丁

寧形の使用が増加していることが分かった。

近年「くださる」に比べ「いただぐ」が好まれる傾向について、先行研究では、相手を動作主として立てない「いただぐ」の方が婉曲的であり丁寧な表現であることが理由として挙げられる。しかし、本稿が取り上げる「～いただきますようお願いします」において、構文上の問題点があるにも関わらず「～いただぐ」が好まれる理由としては十分なものではなく、本稿では恩恵性の有無という観点から考察した。「～いただきますようお願いします」の場合、「いただぐ」の持つ恩恵性が希薄化している実例が多く見られ、その場合、尊敬語への置き換えが可能である。このような「～いただぐ」については、本来の恩恵性が希薄化し、尊敬語化したものと考えることができる。

注

- 1 齋 (2013: 152) は、「この表現は「してください」に類似した意味を表すが、「してください」より丁寧であり、フォーマルである」「この形は手紙文中や、複数の人々に向けた依頼に、多く見られる」と述べている。
- 2 森山 (2000: 76-77) は、「遂行動詞とは、言語行為そのものを表す動詞であり、スル形で言えばそのまま命令などの言語行為をすることを表す」と述べ、「お願いする」は、「謙譲語のない形の「願う」だけでは、依頼の意味を持たず、敬語形態と共にすることによって、命令の遂行動詞という意味を表す」と述べている。
- 3 野呂 (2015) では、学生の文章作成課題からの考察を述べている。その課題は、敬語を使わない表現を適切な表現に直させる形式であった。「くれる」を含む表現を修正させた場合にも、「くださる」を用いた回答数と「いただぐ」を用いた回答数に大きな差はなかった。
- 4 全国満 20 歳以上の男女 1,241 人が回答した「日本語のゆれ調査」(39 項目) の一部 (2013 年 3 月実施)。
- 5 漢字表記の「下さる／頂く／頂ける」、「お願ひいたします／お願ひ致します」も合わせた件数を示している(平成 27 年 8 月検索)。
- 6 齋 (2013: 144) は、「お願ひします」が依頼の意味をもつ条件の 1 つとして、「依頼された行為の動作主体は 2 人称である」を挙げている。
- 7 前田 (2006: 70) も、「ように」が命令・祈願の引用内容を表す用法について、話者の願望・当為的なまちのぞみの内容を表すとしている。また、命令の場合には、従属節の主体は二人称に限られると述べている(同書: 60) が、ここでの命令には依頼も含まれている。
- 8 秋田 (2010: 53) は、「動作主が V ていただぐ」について、「待遇的には「くださる」より「いただぐ」のほうがいいとの意識の変化からの「いただぐ」の積極的な使用により、「いただぐ」が恩恵表現の主流になった」とし、「動作主が」の部分では、誰が恩恵を与えたのかをより強く明示するために、ガ格で与益者を表している」と述べている。しかし、前節で挙げた恩恵性が希薄化している例を考えると、「いただぐ」が恩恵表現の主流になった」とは言い難いのではないだろうか。

引用文献

- 秋田恵美子 (2010) 「「いただぐ」の過剰使用傾向について」『創価大学別科紀要』20 号, pp. 32-60.
上原由美子 (2007) 「「ていただぐ」の機能: 尊敬語との互換性に着目して」『神田外語大学言語科学研究センター

紀要』 vol.6, pp.185–207.

金澤裕之 (2007) 「「～てくださる」と「～ていただく」について」『日本語の研究』3巻2号, pp.47–53.

北澤尚 (2008) 「「お～いいただきますようお願い申し上げます」と「お～くださいますようお願い申し上げます」」, 近代語研究会編『近代語研究』第14集, pp. 343–353, 武蔵野書院.

グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 くろしお出版.

国立国語研究所 (1992) 『日本語教育指導参考書 18 敬語教育の基本問題（下）』 大蔵省印刷局.

齋美智子 (2013) 「「お願いします」考—依頼表現として使われる時—」『國立高雄第一科技大學應用外語學報第十九期』 Vol.19, pp.135–158.

塩田雄大・山下洋子 (2013) 「“卵焼き”より“玉子焼き”～日本語のゆれに関する調査（2013年3月）から～」, 『放送研究と調査』 vol.63, no.9, pp.40–59.

高島俊男 (2002) 『お言葉ですが…⑥イチレツランパン破裂して』 文藝春秋.

寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろしお出版.

野呂健一 (2015) 「「いただく」を用いた依頼表現の使用実態」『高田短期大学キャリア研究センター紀要・年報』創刊号, pp. 21–28.

萩野貞樹 (2005) 「知らずに使っている！ビジネス敬語誤用辞典」『プレジデント』43巻20号, プレジデント社, pp.90–93.

前田直子 (2006) 『「ように」の意味・用法』 笠間書院.

益岡隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30巻5号, pp.26–32, 大修館書店.

森山卓郎 (2000) 「第1章 基本叙法と選択関係としてのモダリティ」 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2000) 『日本語の文法3 モダリティ』 岩波書店.

山田敏弘 (2004) 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「もらう」の文法—』 明治書院.

用例出典

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)

検索エンジン Google (<http://www.google.co.jp/>)

付記

本稿の内容は日本語学会2015年度秋季大会における研究発表（2015年10月31日（土）、山口大学）の内容に、加筆・修正したものです。会場において、有益なご意見をいただいた先生方に感謝申し上げます。